

【ポイント】

内政

- 1日、ラカジェ・ポウ大統領が国会で施政方針演説を行い、自身の施政期間中、雇用が伸び、改革アジェンダが進展し、社会への資金投入が増え、財政目標が達成され、インフレ率が過去18年間で最低となり、犯罪は減少傾向にある等述べた。
- 10月の大統領選挙に向けた選挙活動に従事する関係で、国防大臣、社会開発大臣、観光大臣が交代した。

外交

- 外務省は、ベネズエラ大統領選挙にかかる、同国当局による野党関係者の逮捕や野党候補者の候補者登録妨害等の事案を受け、同国の政治情勢の悪化を懸念する旨のコミュニケを発出した。
- 21日、ミルゾヤン・アルメニア外務大臣が当国を訪問、パガニーニ外務大臣と会合を行い、在ウルグアイ・アルメニア大使館の開所式に出席した。

経済

- 13日、ウルグアイ21(貿易投資促進庁)による、外国投資家に対するウルグアイのビジネス環境に係る調査結果が発表され、外国企業の84%がウルグアイのビジネス環境に満足しているとの結果となった。
- 15日、米格付会社ムーディーズ社による信用格付けが発表され、ウルグアイは Baa2 から Baa1 に格上げされ、見通しは「安定的」となった。

【本文】

1 内政

(1)ラカジェ・ポウ大統領の施政方針演説

1日、ラカジェ・ポウ大統領が今年度の当国国会の開会に際し、施政方針演説を行った。同大統領は演説において、雇用は力強く伸びており、改革アジェンダは進展し、社会への資金投入は増え、カントリーリスクは史上最も低く、減税が行われ、財政目標は達成され、インフレ率は少なくとも過去18年間で最低である、治安面では2019年との比較で、窃盗が約20%、強盗が27%、家畜泥棒が50%、車両窃盗が24%、殺人が3%減少し、犯罪は減少傾向にある等述べた。

(2)閣僚の交代

4日、ガルシア国防大臣とレマ社会開発大臣が、デルガド前大統領府長官の大統領選挙に向けた活動を支援するために辞任したことに伴い、アルマンド・カスティンデバ下院議員が新たな国防大臣に、アレハンドロ・シアラ同省国土管理局長が新たな社会開発大臣に就任した。また、11日、タバレ・ビエラ観光大臣が、連立与党コロラド党の大統領予備候補として自身の選挙活動に従事するために辞任したことに伴い、エドゥアルド・サンギネッティ観光大臣法律顧問(注:サンギネッティ元大統領の甥)が新たな観光大臣に就任した。

(3)支持政党に関する世論調査結果

11日、世論調査会社 Factum 社は、「もし選挙が次の日曜日に行われるならば、どの政党に投票するか」との質問に対する世論調査結果を発表した。その結果、野党FA(拡大戦線)の支持率は43%、連立

与党全体の支持率は47%となり、両者の支持率は接戦となっているが、2019年の大統領選挙の結果と比較すると、野党FAの支持率は4ポイント上昇し、連立与党全体の支持率は7ポイント下落した。

2 外交

(1)ウルグアイのUSMCA加盟提案を含む法案の米国議会への提出

6日、米国の共和党及び民主党議員は、ウルグアイを米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA、旧NAFTA)の新加盟国の候補として検討する提案を含む法案を、上下両院議会に提出した。同法案は、2026年以降にUSMCAの拡大を促進するためのメカニズムを提案し、ウルグアイとコスタリカを(新加盟国候補の)検討すべき国として推奨するものである。

(2)ベネズエラ政治情勢の悪化に対する懸念表明

20日、外務省は、ベネズエラ当局による野党関係者の逮捕事案を受けて、ベネズエラの政治情勢が悪化の一途をたどっていることに懸念を表す旨のコミュニケを発出した。続く25日、外務省は、アルゼンチン、コスタリカ、エクアドル、グアテマラ、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国、ウルグアイ政府の連名で、ベネズエラ大統領選挙にかかる、野党候補者の候補者登録が妨害されていることに重大な懸念を表す旨のコミュニケを発出した。

(3)アルメニア外務大臣の当国訪問

21日、ミルゾヤン・アルメニア外務大臣が当国を訪問、パガニーニ外務大臣と会合を行い、二国間アジェンダ及び貿易活性化の可能性について協議した。また、両大臣出席の下、在ウルグアイ・アルメニア大使館の開所式が行われた。

3 経済

(1)外国投資家に対するビジネス環境調査結果

13日、ウルグアイ21(貿易投資促進庁)による、外国投資家に対するウルグアイのビジネス環境に係る調査結果が発表された(2015年と2018年に続く3回目の調査であり、235社が調査対象)。同調査結果によれば、外国企業の84%がウルグアイのビジネス環境に満足しており、2015年の76%、2018年の47%と比べて、満足度が大きく上昇した。満足度が高い主な要因は、マクロ経済・政治・社会の安定性、法的・制度的安定性、免税・税制優遇措置、開かれた為替市場及び配当金の本国送金の容易性であった。

(2)ムーディーズ社による信用格付 Baa1 への格上げ

15日、米格付会社ムーディーズ社による信用格付けが発表され、ウルグアイは Baa2 から Baa1 に格上げされ、見通しは「安定的」となった。ムーディーズのレポートは、格上げの理由として、構造改革の実施と財政政策の継続的な遵守を支える制度的な強さを挙げている。また、困難な経済状況にあっても、責任ある財政運営が行われ、インフレ率が低く抑えられ、力強い投資の流れがあることも強調されている。

4 要人往来

(1)往訪

・14日～15日：パガニーニ外務大臣の米国訪問(第2回年次省庁間対話)

(2)来訪

・21日:ミルズヤン・アルメニア外務大臣の当国訪問(パガニーニ外務大臣との会合、在ウルグアイ・アルメニア大使館の開所式出席)